



我が県土  
支え育む  
希望郷

# 美しい 県土づくりNEWS

2017年

7月

岩手県 県土整備部  
手づくり広報誌第156号  
平成29年8月7日発行  
編集 県土整備企画室



# 三陸復興

## 目次

- 1 水門・陸閘自動閉鎖システムの運用を開始！
- 3 木賊川遊水地整備工事 安全祈願祭を開催しました！
- 6 けんせつ小町部会を設立  
～建設産業における女性活躍に向けて～
- 8 景観学習を実施しました！
- 9 東日本大震災津波の被災3県による合同要望を実施

## 「水門・<sup>りっこう</sup>陸閘自動閉鎖システム」の運用を開始！

河川課

平成29年7月31日（月）、宮古市の神林海岸、高浜海岸及び大船渡市の<sup>あつたり</sup>合足農地海岸において、水門・<sup>りっこう</sup>陸閘自動閉鎖システムの運用を開始しました。

運用の開始に当たっては、達増知事が水門・陸閘自動閉鎖システムの運用開始を宣言しました。



達増知事、宮古市・大船渡市消防団長による模擬信号送信の様子

# 水門・陸閘自動閉鎖システムの運用を開始！

河川課

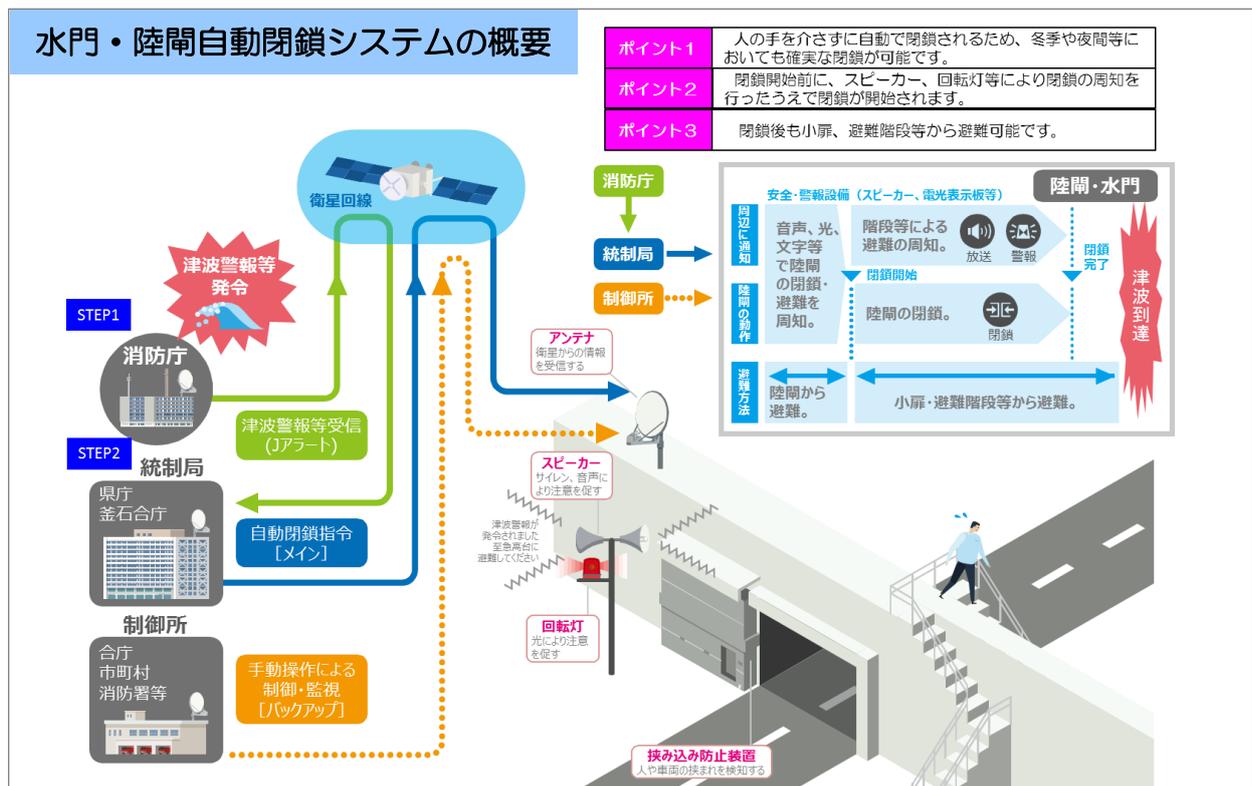
宮古市の神林海岸、高浜海岸及び大船渡市の合足農地海岸の水門・陸閘 8 基において、県が整備を進めてきた「水門・陸閘自動閉鎖システム」が平成 29 年 7 月 31 日に運用を開始しました。

当日は、運用を開始する施設のある、宮古市の山口副市長、山下消防団長、大船渡市の戸田市長、新沼消防団長の出席のもと、また、東日本大震災津波発災時から東北地方整備局長として岩手県の復旧・復興にご支援いただいた元国土交通事務次官の徳山氏などが出席し、達増知事と宮古市・大船渡市の消防団長による Jアラートの模擬信号の送信を契機として水門・陸閘が閉鎖する様子を確認し、達増知事がシステムの運用開始を宣言しました。

今後は、操作員の安全の確保や、沿岸地域の方々の安全・安心の確保が図られるよう、水門・陸閘の工事が完了した箇所から順次、システムを運用する予定です。



左から戸田大船渡市長、達増知事、徳山元国土交通事務次官、山口宮古市副市長



とくさがわゆうすいち  
**木賊川遊水地整備工事**

**安全祈願祭を開催しました！**

盛岡広域振興局土木部

一級河川木賊川の広域河川改修事業の一環として県が整備する木賊川遊水地の本格的な工事着手に先立ち、平成29年6月30日（金）に工事受注者（株式会社中村建設）が主催する安全祈願祭が行われ、約30名の参加者が無事故・無災害による工事の完成を祈願しました。

この河川改修事業は、滝沢市と盛岡市に跨がる木賊川の流域が大雨のたびに洪水被害に見舞われてきたことから、その治水対策として実施するものです。このうち<sup>もろくずがわ</sup>諸葛川への放水路については平成23年度に完成していますが、このたび工事に本格着手する遊水地の整備と、その後に予定している木賊川の河川改修による3つの洪水調節機能を有する計画です。

これらの整備により、概ね50年に一度の割合で発生する大雨による洪水を安全に流下させることができるようになります。県では、今後も住み良いまちづくりの基盤となるこの河川改修事業の推進に全力で取り組み、安全・安心な暮らしの実現を目指します。

安全祈願祭の様子



神 事



工事の安全を祈願する出席者

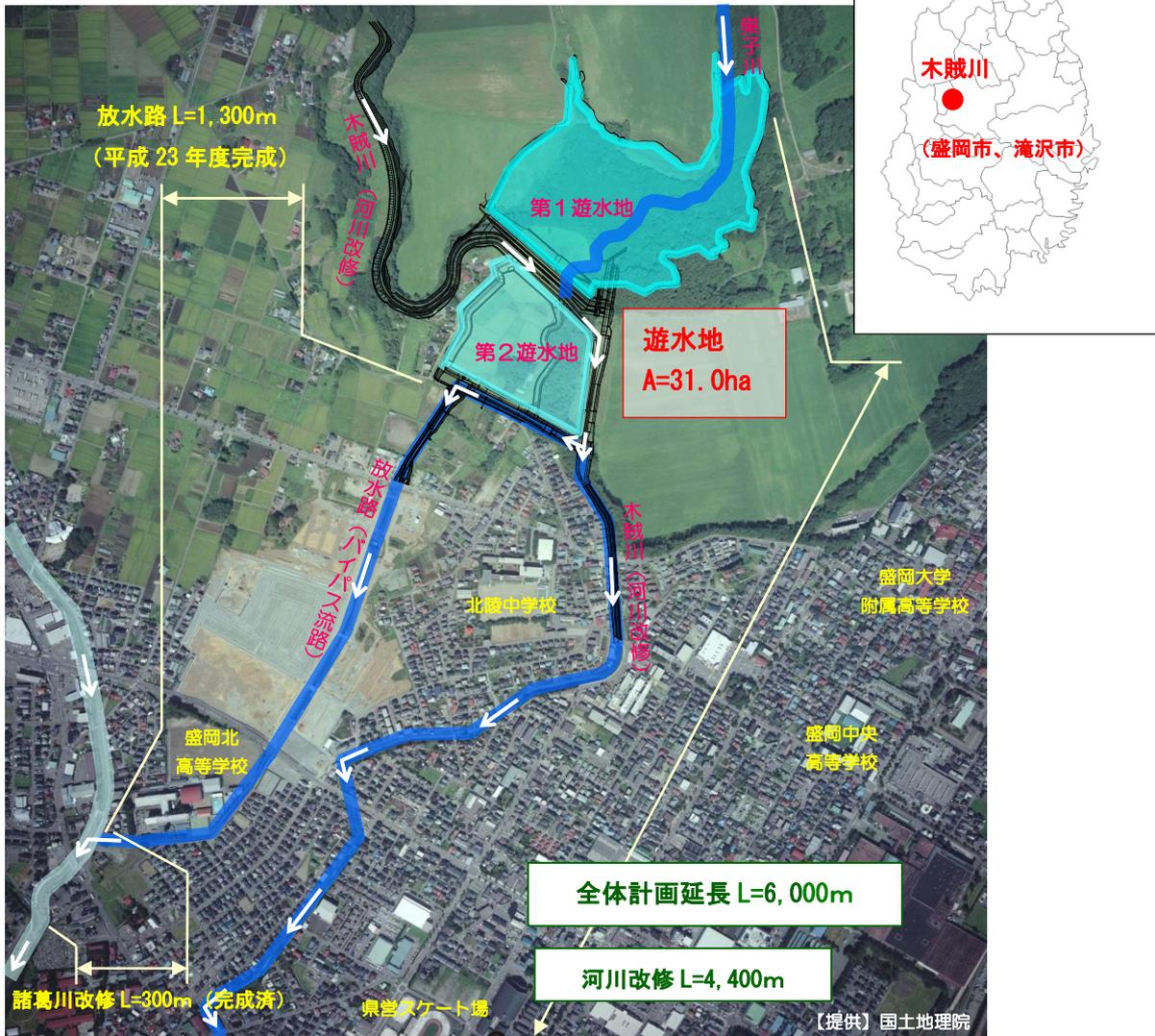


宮野盛岡広域振興局長による歛入れ



㈱中村建設・中村代表取締役社長による挨拶

一級河川木賊川 広域河川改修事業について



河川改修事業計画図

3つの洪水調節機能を有する河川改修事業です！

**放水路** 木賊川のバイパス流路を整備し、洪水時の流れを諸葛川へ導きます。  
(平成23年度に完成しています。)

**遊水地** 洪水を一時的に貯留し、下流への流量を調節します。

**河川改修** 木賊川の断面を拡幅し、河川の流下能力を向上させます。

今回整備する木賊川遊水地の計画

	第1遊水地	第2遊水地	合計
調節容量	370,000m <sup>3</sup>	90,000m <sup>3</sup>	460,000m <sup>3</sup>
遊水地面積	20.6ha	10.4ha	31.0ha
完了年度	平成35年度 (西暦2023年度)		
概算事業費	約42億円		

木賊川と諸葛川の流域（盛岡市と滝沢市に跨る地域）では、大雨のたび浸水による被害を受けてきました。このような状況を踏まえ、地域の方々が安心して暮らせるよう、浸水被害の解消に取り組んでいます。

これまでに発生した主な浸水被害

年月	原因	木賊川	諸葛川
昭和22年9月	台風等の長雨	約1.0m	0.3~1.8m
昭和23年9月	台風等の長雨	0.5~0.8m	0.3~2.0m
昭和41年6月	台風の大雨	約0.2m	0.1~1.5m
昭和45年	台風の大雨	—	約0.5m
昭和49年8月	台風等の長雨	約0.5m	約0.3m
昭和50年7月	台風等の長雨	約0.5m	0.1~0.3m
昭和54年8月	大雨	約0.5m	約0.1m
昭和57年9月	台風等の長雨	—	約0.2m
昭和58年8月	台風の大雨	—	約0.2m
平成7年8月	豪雨	約0.5m	—
平成14年7月	台風の大雨	0.2~1.0m	—
平成17年8月	豪雨	約0.5m	—



平成14年7月の被災状況

【上】盛岡市立北陵中学校付近（浸水状況）

【下】県営運動公園付近（市道の冠水状況）

木賊川の洪水被害の要因

**流下能力の不足** 川幅が狭く、しかも河道が曲がりくねっていること、さらに落差工や橋梁等の構造物が多いことが挙げられます。

**流域の都市化の進行** 短時間の降雨が急速に川へ流れ込むことに加え、下流域の両側に住宅が密集していることも要因です。

木賊川と諸葛川の流域における治水の状況

上記のとおり、木賊川と諸葛川では何度も洪水に見舞われてきました。特に平成14年の台風6号による洪水では、木賊川の越水や堤防が破堤したことにより、滝沢市穴口地区、盛岡市上堂地区を中心に広い範囲で浸水被害を受けました。（床上浸水：16戸、床下浸水：103戸、避難勧告戸数：1,253世帯、3,484人）

諸葛川は、下流側の区間の河川改修が完了したことにより、近年は洪水被害を受けにくくなっています。

また、木賊川については、諸葛川へ通じる放水路が完成したことにより、洪水被害を受けにくくなりましたが、さらなる治水安全度の向上を目指し、このたび本格的に遊水地の整備工事に着手しました。そして、この遊水地が完成した後は下流の河川改修に取り組めます。

# けんせつ小町部会を設立 ～建設産業における女性活躍に向けて～

建設技術振興課

平成 29 年 7 月 25 日（火）、いわて女性の活躍促進連携会議に設置された 5 部会の一つである「けんせつ小町部会」の第 1 回目となる会議を開催しました。

当部会は、（一社）岩手県建設産業団体連合会の構成団体及び岩手県で組織され、建設産業の担い手確保のため、建設産業における女性の就業割合を増やすことを目的に設立されたものです。

会議では、建設産業における女性活躍に向けての問題点や今後の取組についての、幅広く意見交換等が行われました。この中で、男性の構成比率が著しく高く、多種多様な業種で構成された**建設産業の課題**として、「安全・衛生面の向上」、「**経営者や男性社員の意識改革**」、「**組織でのバック・アップ体制の確立**」等について意見が出されました。

今後、これらの意見を踏まえ、女性の活躍支援のための総合的な取組について検討していきます。

## 1 部会の設立目的

女性がやりがいを持って働くことのできる魅力ある職場環境の整備など、建設産業における女性の活躍支援のための総合的な取組を推進し、女性、若者等建設産業における新たな担い手の確保・育成を図るものです。

## 2 会議の概要

- (1) 日 時 平成29年7月25日（火） 13時30分～15時30分
- (2) 場 所 エスポワールいわて1F小会議室
- (3) 出席者 （一社）岩手県建設産業団体連合会 木下会長、岩手県建設業女性マネジングスタッフ協議会 高橋会長ほか女性委員 9 名
- (4) 委員名簿

団体名	所属名	氏名	備考
(一社) 岩手県建設業協会	三陸土建(株)	木下 紘	会長
(一社) 岩手県建設業協会	(株)小原建設	高橋 純子	副会長
(一社) 岩手県建設業協会	(資)高福組	上野 千寿子	
(一社) 岩手県建設業協会	(株)高光建設	佐藤 万寿美	
(一社) 岩手県空調衛生工事業協会	(株)双葉設備アンドサービス	千田 真紀子	
岩手県鉄構工業協同組合	(株)カガヤ	玉山 直美	
(一社) 日本塗装工業会岩手県支部	川上塗装工業(株)	川上 冴華	
(一社) 岩手県測量設計業協会	(株)吉田測量設計	砂金 睦	
岩手県アスファルト合材協会	(株)NIPPO	浅野 環	
(一社) 岩手県電業協会	(株)興和電設	工藤 監子	
(一社) 日本造園建設業協会岩手県支部	(株)仙北造園	吉川 三枝子	
(一社) 岩手県警備業協会	(有)新生警備保障	吉田 繭	
岩手県	県南広域振興局土木部花巻土木センター	田家 清子	

### 3 会議での主な意見

- ・ 現場の大きな課題として、トイレ・更衣室・休憩室が男性と共用で整備が不十分など、安全・衛生面の改善・向上が必要。
- ・ 経営者や男性社員の意識が変わらないと取組は進まない。当部会の取組を各業界の経営者に知ってもらうことが重要。
- ・ 女性は、結婚・出産・育児と仕事を両立できるかが課題。そのバック・アップ体制を業界で確立できるかが大事。

### 4 事業計画

事業名	事業内容
けんせつ小町ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>意見交換会</b> 現場見学会、講座等の開催に合わせて開催し、建設産業で働く女性職員同士等の連携、情報交換に向けた人的交流を推進するとともに、課題や方策について提言をいただく。</li> <li>・ <b>SNS方式活用による交流</b> 時間と場所を選ばず、随時、意見交換や問題・課題等の情報共有を図る場として構築。県等の関連施策の情報発信も行う。</li> </ul>
現場見学会（案）	実際に女性が活躍する現場において、快適トイレ等の女性に配慮した施設を見学し、女性が働く現場の状況を確認するもの。
講座（案）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>体験講習</b> 建設産業で働く女性等の能力向上を目的として、ICT技術の活用促進に向けた、ドローン、3次元ソフト、VR等の講習会</li> </ul>



木下会長挨拶



会議中の様子

# 景観学習を実施しました！

## 都市計画課

都市計画課では、子どもたちが身近な景観を通じて地域の魅力や課題を発見する体験型学習「景観学習」を実施しています。

### <景観学習の内容>

景観学習は、県内の小学生を対象に、身近な景観から地域の歴史や文化を理解しながら地域の魅力を感じ取る機会を提供することにより、①景観とは何かということについての理解を促し、②地域の景観をみんなの共有財産として大切にすることを意識を高め、③地域に対する誇りや愛着心を育み、景観づくりの担い手として自ら考え行動できる人材を育成することを目標とした取組です。

都市計画課では景観の専門家を講師として派遣、デジタルカメラ等の備品の貸し出しをして、景観学習を実施しています。

### <景観学習の流れ（平成29年度実施 小学校3年生の例）>

#### ○1回目

- ・講師によるガイダンスを実施、「景観とは何か」や地域の景観の見方や感じ方についての授業
- ・実際に児童が学区内を歩き、「好きだな」「ちょっと嫌だな」「不思議だな」などの観点で写真を撮影



ガイダンス



まちあるき

#### 感想 子どもたちの声

- ・いつも遊んだり通ったりしている所でも見方を変えれば、良い所や悪い所をたくさん見つけることができました。
- ・景観がきれいだとその地域に住んでいる人たちが気持ちよく生活できるのかなと思いました。

#### ○2回目（1回目の1週間後）

- ・撮影した写真をもとに、テーマを決め、（好きな、不思議な、おもしろい景観等・・・）、なぜそのように思ったのか、タイトルを景観シートにとりまとめて発表。
- ・班毎に景観マップを作成



景観シートの作成



景観マップの作成

## 東日本大震災津波の被災3県による合同要望を実施

県土整備企画室

東日本大震災津波の被災県である岩手県、宮城県、福島県の3県合同で、東日本大震災津波からの一日も早い復旧・復興に向けて、7月13日に復興庁及び国土交通省に対し、被災3県の部長による要望を行いました。

被災3県合同要望は、東日本大震災津波の被災県の課題解決に向けて、これまで継続的に実施しています。

要望内容は、国が行う復興事業に関するものと被災3県の復興に係る課題に関するものであり、今回要望した項目は、以下のとおりです。

このうち、「東日本大震災特別家賃低減事業の期間延長」は、災害公営住宅の家賃を低減する事業の期間延長に関する要望であり、岩手県が国へ対して行っている要望としては、今回が初めてとなるものです。

今後も、復旧・復興を成し遂げるため、継続的に国へ働きかけていきます。

### 【要望内容】

#### 国が行う復旧・復興事業の整備促進に関する要望

- ① 復興に向けた広域道路ネットワークの整備促進
- ② 地域の復興を支える港湾の整備促進
- ③ 被災3県に整備する国営追悼・祈念施設（仮称）の早期整備

#### 被災地における復旧・復興事業と国土強靱化に向けた社会資本整備に関する要望

- ① 復旧・復興事業の確実な予算措置
- ② 東日本大震災特別家賃低減事業の期間延長
- ③ 地方創生・国土強靱化に向けた社会資本整備の確実な予算措置
- ④ 道路整備事業に係る特別措置に関する法律の継続・拡充及び財政支援
- ⑤ 海岸防潮堤の適正管理に要する財政措置の拡充

【復興庁への要望状況】



（右は、長坂康正復興大臣政務官）

【国土交通省への要望状況】



（左から2番目は、毛利信二国土交通省事務次官）